



免疫反応の可視化により明らかになった 新たな皮膚免疫の世界

梶島 健治 博士

京都大学大学院医学研究科
皮膚科学教室

平成24年10月15日(月)午後17:00-18:30
健康医科学イノベーション棟8階講堂

講演要旨

皮膚は接触皮膚炎、アトピー性皮膚炎など多彩な免疫反応を誘導する免疫臓器です。これらの免疫応答は、皮膚に存在するT細胞や樹状細胞などが重要な役割を果たします。免疫機構は 10^{11} に及ぶ多数の免疫細胞が体内を移動し、相互作用し合うことによって誘導される複雑な動的システムであります。したがって、免疫応答誘導プロセスにおいて皮膚免疫担当細胞の相互作用は必須であり、これらの時空間的動態を検証することは、今後の皮膚免疫学の発展における重要課題であります。

我々は、樹状細胞を特異的に欠失させる遺伝子改変マウスや、二光子励起顕微鏡による皮膚免疫細胞のリアルタイムイメージングシステムにより、皮膚の三次元構造、多様な皮膚免疫応答誘導における樹状細胞やT細胞の役割を検証してきました。本セミナーでは、当研究室で得られた新知見を紹介します。皮膚免疫の理解を深める基礎医学的見地からのみならず、臨床医の方にとっても有意義な内容になるように心がけたいと思います。